

「ジョークで時代をふっとばせ！」のブックレポート2 2002.6.21 金子尚人

3. 最重要事項解説

第2章 ジョークの達人デビュー —風雲の1960年代—

1961年、アメリカでは史上最年少の大統領が誕生した。第35代大統領ジョン・F・ケネディである。ケネディのユーモアセンスは、歴代大統領の中でも際立っていた。ニクソンとの大接戦の末、勝った理由のひとつには、彼の卓越したユーモアのセンスがあったからだといわれている。

ケネディ夫妻が、メキシコを訪問した時のこと。晩餐会で、ケネディは、メキシコ大統領がはめている時計を褒め称えた。メキシコ大統領は、それをはずしてケネディに進呈した。ケネディは遠慮するが、相手は引き下らない。

「何かを誉められたら、それを誉めてくれた相手に差し上げるのが、メキシコの習慣なのです」

その時、ケネディは、脇に座っていたジャクリーン夫人に、「君を誉められたら困るな」

時を同じくして1961年の4月に、ソ連がヴォストーク1号の打ち上げに成功した。それに乗り込んだのは、ユーリ・ガガーリンという少佐だった。地球を1周し、歴史に名を残した。

「ロシア人の男で、出張に出かけて、酒も飲まず浮気もしなかったのは、ガガーリンだけだった」

ロシア人の男のステレオタイプは、アルコール好きと浮気ぐせである。

1962年に第2回ヴァチカン会議が行われ、その会議での重要テーマのひとつは、「2000年前、ユダヤ人がキリストを殺した罪を、許すべきかどうか」。結論してはユダヤ人による神殺しを許すことになった。これにユダヤ人たちが喜んだかというところでもなかった。一部ユダヤ人は、ナチス時代、「ローマ法王庁が、ナチスからユダヤ人をかばわず、逆にナチに協力した」という歴史的事実を挙げて、ヴァチカンを責めた。これを機に、アメリカではカトリックに関するジョークがはやった。アメリカのコメディアンの大部分がユダヤ人なので、当然といえば当然だった。中でもカトリックに対して最高のジョークで対応したのは、今では伝説のコメディアンといわれているレニー・ブルースであろう。もちろん、彼はユダヤ系、しかも反体制派の旗手であった。

アメリカにおけるユダヤ人は、エスニック・マイノリティとしては、一番教育レベルが高い民族である。その彼らが、最も大切にするのは子どもたちである。特に、男の子は大事に扱われ、末は医者にさせるという親達の執念にはすさまじいものがある。例えば、親は、子どものファースト・ネームにドクターをつける。それほどユダヤ人の親にとっては、息子が医者になるということは名誉であり、勲章なのだ。

ある時、舞台に立ったレニーはクラブの後ろの方から彼を監視していた警官達に向かい、
「神は人間を自分のイメージにそってつくったといわれてるけど、あんたがたは突然変異
だったのかね？」

ユダヤ人の母親と息子は非常に近い。これは単なるステレオタイプではなく、アメリカの
ホモ人口の中で、ユダヤ系が最も多いという数字がバックアップしている。息子は母親をこ
の世で最高の女性と思い、母親は息子を純粋性のかたまりと信じている。

第3章 センスゼロの指導者たち —急転の1970年代—

クリントンもそうだが、ニクソンも、常にケネディを意識し、自分と比べていたという。国
民の間で、なぜケネディがあれだけ人気があり、愛されたのかが不思議でならなかったよう
だ。ケネディが陽の性格なのに対し、ニクソンは典型的な陰の性格であったことを国民はよ
く知っていた。ネクラの人間は、他人に心を開かないし、極端な秘密主義に陥るきらいがあ
る。そのため、ニクソン時代、国民は、いつも「彼が何か重要なことを隠しているのでは
ないか」という疑心暗鬼に陥り、悩まされ次のようなプラカードがよく見られた。

「オズワルドよ、いまこそあんたを必要としているのにどこに行っちゃったんだ?!」

自分の性格が暗いことについては、ニクソン本人もわかっていただろうが、性格というも
のは、そう簡単に変えられるものではない。しかし、アメリカ国民が何を欲しているかが分
かれれば、大統領として何らかの手が打てるし、そうすれば人気を上げることも可能だ。

ある日、ニクソンは、CIAの長官を電話で呼び出して、彼の下にいる最高のエージェ
ントを推薦するよう指示した。

次の日、エージェントがホワイト・ハウスに現れた。

「CIAの最高のエージェントである君に、折いって頼みがある」

「光栄の極みです。それで、何をすればよろしいので？」

「国中を回って、アメリカ国民が、大統領である私に何をしたいのかを正確につかんで
欲しいのだ」

そのエージェントは了解して、その日のうちに旅立った。

5か月後、彼がホワイト・ハウスに戻ってきた。

「どうだったかね？」 ニクソンが聞いた。

「アメリカ国民が本当に欲していることをつかめたかね？」

「はい、確実につかめました」

「それで？」

エージェントは、銃を抜いて、ニクソンを撃ち殺してしまった。

歴代大統領の中でも、外交分野で、ニクソンが残した功績は大きいと考えられている。
時間はかかったが、ベトナムからの米軍撤退や、中国との国交樹立の礎をつくったことな
ど外交面での貢献度は高い。